

# 平成25年度 学校経営の改革方針

三重県立上野高等学校（全日制）

## I 目指す学校像（基本理念）

- 校訓「自彊不息」の理念のもと、たゆまぬ努力を怠らずお互いに切磋琢磨できる生徒の育成を目指します。
- 社会人としての常識を備え、体力の向上と積極的に学ぶ意欲を持った生徒の育成を目指します。
- 勤労を尊び地域に貢献する奉仕の心を持った生徒の育成を目指します。

## II 現状と課題

（本校の使命）

- 本校は、旧制中学校以来110年を超える歴史と伝統を有し、各界に多くの有為な人材を輩出してきました。現在でも以前と変わりなく、生徒、保護者、地域の人々は本校に対して、伊賀地域の伝統的な進学校として大きな期待を寄せており、それに応えていくことが本校に課せられた使命です。

（進学体制の強化）

- 生徒、保護者とも80%以上が国公立大学への進学を希望していますが、現状としては30%程度の生徒が国公立大学に進学する状況です。生徒や保護者の希望やニーズに応えるためには、どのような学習指導や進路指導を行っていけばよいかなどを研究するとともに、進学体制の強化を図る必要があります。

（理数科の育成）

- 進学体制のより一層の充実と理数教育の充実を図るため、平成21年度から理数科を1学級設置しました。理数科として理数教育に係る様々な体験活動や独自の学習指導を行って4年が経過しましたが、各学年1学級であることや文系を希望する生徒もいることから、今後は、学校全体として理数科を育成支援するための効果的な方策を実施するとともに、理数科を核とした進学実績の向上を目指す必要があります。

（生徒の多様化への対応）

- 伊賀地域の中学生の減少に加え名張市の中学生の一部が津市内や他府県の高校へ進学することなどの影響から、これまで以上に多様な生徒が本校に入学してくるようになってきました。そのことを踏まえて今後も習熟度別学習や学力補充の機会を多く設定するなどして、多様な生徒に対してきめ細かく指導するなどして、生徒の多様な進路のニーズに応える必要があります。

（文武両道の確立）

- 本校には文武両道の伝統があり、生徒や保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待しています。進学校としての役割を果たしながら部活動の充実に努め、文武両道を推進していく必要があります。

（生徒指導の充実）

- 生徒は素直で真面目によく努力し、概ね規範意識が保たれていますが、一部に基本的な生活習慣や倫理観が十分に定着していない状況も見られます。今後は、ルールやマナーを守り、けじめのある高校生活を送れるように生徒指導を充実する必要があります。

（人権教育の推進）

- 人権尊重の理念を身につけた心豊かな人間形成を目指してさまざまな人権教育を実施しています。今後も、人権についての意識を高め、差別を認識し、常に協力して差別を無くそうとする意欲と実践力を持った生徒を育成するため人権教育を推進する必要があります。

（開かれた学校づくり）

- 本校の現状や取り組みに関する情報が、中学校関係者や地域の人々に十分に伝わっていない実

態があります。また、学校関係者評価委員など学校外の意見を学校経営に取り入れる体制が不十分です。今後は、授業公開をこれまで以上に推進するとともに本校の教育活動に関する情報をインターネットや中学校訪問等によって地域社会に積極的に発信するとともに、地域の意見を学校運営に取り入れていく必要があります。

### Ⅲ 中長期的な重点目標

- 1 生徒に提供する授業内容を充実するために、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善を進め、生徒の学力向上に取り組むとともに多様な生徒の多様なニーズに応えます。
- 2 生徒の進路希望を実現するために、キャリア教育を中心とした教育活動を充実し、大学進学だけでなくその先の社会活動を見通した組織的な進路指導を進めます。
- 3 生徒指導、人権教育、健康教育を充実させ、社会で生きていくために必要な倫理観や道徳観を育むとともに体力の向上に努め、生徒の心と体の健全な育成に取り組みます。
- 4 学校は地域社会の一員であることを自覚し、情報発信や地域貢献を通して開かれた学校づくりを推進します。
- 5 生徒や教職員に安全で安心な教育環境を提供するため学校の施設・設備の改善や安全対策に取り組みます。
- 6 教職員が意欲的に業務に取り組む充実感を得ることができるよう、組織の在り方や業務内容の見直し、過重労働の削減などに取り組む、快適な職場作りに取り組みます。

### Ⅳ 本年度の行動計画

#### 1 授業内容の充実

公開授業や授業研究などを通して、多様な生徒が充実感を味わうとともに学力向上を図ることが出来る授業内容とする。

- 授業の質を向上させるため、生徒による授業評価を実施します。  
【取組状況の指標】生徒による授業評価を2回（1学期、3学期）実施  
【達成状況の指標】生徒の授業満足度（とても満足＋満足）80%以上
- 授業改善のため、研究授業及び事後検討会を実施します。  
【取組状況の指標】研究授業を6回、事後検討会を3回実施  
【達成状況の指標】事後検討会の成果を踏まえた授業を行う教員の割合100%
- 指導内容・方法の改善のため、理数科授業担当者会議を実施します。  
【取組状況の指標】理数科授業担当者会議の開催  
【達成状況の指標】各学期1回以上の開催
- 生徒の学力向上のため、授業時間の確保に努めます。  
【取組状況の指標】自習時間の減少  
【達成状況の指標】120回未満
- 人権学習LHRを充実し、人権感覚を高め、行動力のある生徒を育成します。  
【取組状況の指標】人権学習LHRと授業公開の実施  
【達成状況の指標】各学年1回以上実施

#### 2 組織的な進路指導体制の充実

生徒の多様な進路希望を叶えるため、進路指導部だけでなく学校の組織全体が協力するとともに、情報共有しながら一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行う。

- 生徒の進路意識を高めるため、進路に関する講話や講演会を実施します。  
【取組状況の指標】職業体験談、大学出張講座、卒業生と語る会の開催  
【達成状況の指標】各1回以上開催

- 進路に関する教職員間の情報交換、研修を計画的に実施します。  
【取組状況の指標】進路指導部と学年進路係による委員会開催  
【達成状況の指標】12回以上
- 理数科独自に、学習合宿、MieSSH、研究室訪問、科学オリンピックへの参加などの活動を行います。  
【取組状況の指標】各取組における評価アンケート実施  
【達成状況の指標】満足度80%
- 生徒の心の悩みや問題行動に適切に対処できるように、教職員の資質向上を図ります。  
【取組状況の指標】教育相談研修会と事例検討会の開催  
【達成状況の指標】教育相談研修会1回、事例検討会2回以上

### 3 異校種や地域社会との連携の充実

小学校や中学校、地域、関係機関などとの交流を積極的に取り入れ、生徒の自主的、自発的な活動が効果的に行われるようにする。その際には、コミュニケーション能力の育成や言語活動の活性化を図るようにする。

- 小・中学生をはじめ地域の人々を学校に招き、HAQUAホール（明治校舎）を利用するなどして、本校生徒との交流を図ります。  
【取組状況の指標】HAQUAホール（明治校舎）を利用した交流回数  
【達成状況の指標】5回以上
- 地域の人々に対する学校施設の開放をはじめ地域貢献に積極的に取り組みます。  
【取組状況の指標】学校開放講座（同窓会主催）の実施  
【達成状況の指標】5回以上